



平成27年4月号(隔月発行)

札幌司法書士会 会長 猿田史典 編集担当責任者 番井菊世 <http://www.sihosyosi.or.jp/>

〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地 電話 011-281-3505 FAX 011-261-0115

おかげさまで30号

5歳になりました

☆☆



きりちゃんが行く！釧路レポート第3弾

「一般社団法人釧路社会的企業創造協議会」！

「生活困窮者自立支援法」が、この4月から施行されました。

生活に困っている方への自立支援策を強化するため、各自治体では、公私の各機関と連携しながら、総合的な相談窓口の設置、就労に向けた支援、住宅の確保、家計相談支援、子どもへの学習支援などを行うこととなります。

今回は、昨年8月に視察してきた、釧路でのこの法律の施行をみこしたモデル事業(当時)を紹介します。



一般社団法人釧路社会的企業創造協議会は、生活困窮者に対して社会的な居場所づくりと雇用の場を創出することを目的に、平成24年に設立されました。

その副代表である榎部武俊さんに、事業内容やその背景、目的などをお聞きしました。

●中間的就労自立●

：自立支援って、どのようなことをするのですか？

榎：一口に「自立」と言っても、様々な自立があります。就労して生活保護から脱却する「就労自立」だけが自立なのではありません。仕事をしながら、お給料では足りない部分を生活保護でまかなう、半就労・半福祉という道もあるでしょう。

：それは具体的にはどのようなものですか？

榎：釧路では以前から、保護受給中の方のために「自立支援プログラム」がありました。すぐに就労することが困難な人に、その人の「ステージ」に応じた多様なプログラムを用意しています。まずは「日常生活自立」として規則正しい生活を送ることから始めます。次に「社会生活自立」としてボランティア

活動などを通じて社会とのかかわりをもって行きます。その後は「就労自立」に進む流れなのですが、「社会生活自立」と「就労自立」との間の落差が大きいという問題がありました。

そこで、この2つの間に「中間的就労自立」というゴールを作ってみよう、ということになったのです。

：なるほど。ゴールというのが重要ですね。

●「ペイドワーク」の模索●

榎：中間的就労自立の実現の場として、緊急雇用の予算を使い、ペイドワーク(＝賃金労働)を掘り起こすべく行動を開始しました。その際、「地域貢献になる、支えられる人が支える側になるしくみを作りたい」と思いました。

：支えられる人が支える仕組みですか？

榎：はい、そこで目をつけたのが、製網作業です。漁業は、釧路の基幹産業ですが、それを支える漁網業界では高齢化が進み、担い手不足が深刻化しています。製網作業は機械化が困難ですが、作業の習熟



度が上がらないと一定の収入が得られません。そこで、中間的就労自立の場として、製網作業に取り組み、同時に社会問題の解決を図ることが狙いでした。

🌱：それは やりがい がありますね。

榊：必要だけどやる人がいない、という「ニッチ（＝すき間）」な部分に取り組む意義があるのです。都市部の夕刊配達など、探せばいろいろとあるはずなんです。

🌱：実際に参加された方の感想などはいかがですか？

榊：中間的就労に参加された方にヒアリングを行い、報告書にまとめています。「体を動かすようになり、生活のリズムが改善された」「家族以外の人と話せるようになった」「技術の習得が、仕事に対する意欲の向上と自信の回復につながっている」といった声があがっています。（報告書は、ウェブサイトでも公開しています。）

🌱：ペイドワークだからこそその効果もあるんですね。

●社会的価値の算定●

榊：なかなか効果測定がしづらい分野ですが、社会的投資利益率（SROI）という方法を用いて、評価を行いました。「居場所や仲間ができた」「就職ができた」「生活保護費が削減された」「釧路市の先進的な取り組みが注目され、釧路を訪れる人が増えた」「漁網を安定的に提供できた」…などを金銭に換算し、その社会的価値を総額3797万円と計算しました。事業にかかる費用と比べても黒字だと考えています。

🌱：計算が難しそうな分野ですが、生きがいをもって暮らすことができるということは本当

に価値のあることだと思います。こういった価値観も広がってほしいですね。

●相談支援事業●

榊：このほか、当協議会では、「暮らし」と「しごと」に関する相談を受ける「暮らしごと」という相談センターを設けています。ハローワークや地域包括支援センター、法テラス、その他支援団体などと連携して対応しており、1年間で893件もの相談を受けました（一人あたりの平均相談回数は5回）。

🌱：相談を受けて、必要なサービスへつなぐのですね。地域での連携が大事ですね。

●大切なこと●

榊：ええ。しかし、いちばん大事なものは、我々の姿勢です。人のところを元気にするには、何をやるか（どんなサービスを提供するか）ではありません。押し付けや強制ではなく、ご本人に寄り添い、その自尊感情を大切にし、ご本人が回復するプロセスを支援する、という姿勢です。

🌱：なるほど。活動にあたって、その姿勢を共有できるか、ということが大切なのですね。とても勉強になりました。どうもありがとうございました。

釧路社会的企業創造協議会では、中間的就労として、製網作業のほかにも、介護予防・健康づくり運動「ふまねっと」の器具製造と運動指導を行っています。こちらについては、次号詳しくご紹介したいと思います。

編集後記

取材場所、「暮らしごと」では、被支援者が作成した雑貨の販売を行っていました。陳列棚にはストラップやキーホルダーなど、様々なものが飾られておりました。私はピンクのハートとお花の形をしたキャンドルを手に取り「これもらおうかな」というと、その様子をじっとみていた支援者の女性スタッフが破顔一笑「それを選んでくれて嬉しい。これ作ったの中年のおじさんなんですよ。でも視察者には女性が多いから、女性の喜ぶものって一生懸命つくってたんす。売れたって早く伝えたい。すごく喜びます！」と言われました。私はその中年のおじさんにも、私が選んでいる最中何も言わずにじっと見守っていた彼女にもぐっと来ました。私の方こそすごく嬉しい出来事になりました。

（K. T）



～ アンケートのお礼 ～



先月号で、きりばたけ通信に関するアンケートをお願いしましたが、多くの方にご回答いただきまして誠にありがとうございました。我々で気が付かなかった視点や、立場に応じたニーズがあることが分かり、大変参考になりました。（書き手の属性による偏りも判明！）アンケートや皆様の直接のご意見をいただきながら、紙面づくりを続けていこうと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。